

# WCS用コーン 順調に

三重・JA伊勢



## 担い手と試験栽培 水管理不要で省力

【三重・伊勢】JA伊勢は7月下旬、試験栽培中の飼料用トウモロコシ（発酵粗飼料WCS）の生育を調査した。同JAは4月から、管内の担い手生産者との試験栽培に取り組んでいる。

調査したのは春まき

（4月）の「スノーデン1110」「スノーデン1118R」。同JA営農指導員の他、県中央農業改良普及センターの担当者も立ち合い、それぞれ5本ずつ収穫。着雌穂高や全長を計測した後、分解してコーンの数や重さなどを確認した。

WCSは、実のつく作物を茎・葉・穂（子実）全体を同時に切断しサイレージ化したもの。飼料に使用するトウモロコシの輸入価格が高騰している状況を受け、国内産のWCS用トウモロコシの需要が高まっている。そこで、同JAは県

## 二期作、小麦と二毛作も可

WCS用トウモロコシの生育を調査する  
同JAの営農指導員ら

中央改良普及センターとともに、WCS用稲の栽培ノウハウを持つ管内の

栽培する4品種は牧草を餌とする乳牛用の飼料向き。完成したWCSは同JA管内の酪農農家に引き渡される予定だ。

担い手生産者にWCS用トウモロコシの導入を提案した。

WCS用トウモロコシ

は、WCS用稲と比較すると水管理が不要なく省力化が期待でき、水稲との作業分散が可能。WCSトウモロコシの二期作、小麦との二毛作も可能で、収益が確保できることも魅力だ。栽培指導などは同JAと県中央農業改良普及センターが行う。

栽培するのはデントコーン「スノーデント」シリーズの5品種。約130㍏で栽培する。春まき3品種と夏まき（7月）2品種に分け、次年度以降は土地や気候、担い手の栽培体系に合った品種と栽培時期を取り入れていく。

栽培する4品種は牧草を餌とする乳牛用の飼料向き。完成したWCSは同JA管内の酪農農家に引き渡される予定だ。